

東北教区報 2025年6月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <https://nssk-tohoku.com/>シリーズ「東北の信徒への手紙」
「希望の中で喜びを感じる信仰人」

司祭 ドミニコ 李 賛熙

まず、5カ月間の休職から戻って皆さんと一緒に信仰生活ができるようになったことを神様に感謝します。皆さんの祈りの力で母も元気になり、家族みんなが良い時間を持つことができました。もう一度、東北教区教役者、信徒皆さんに心から感謝します。

ローマの信徒への手紙12章12節に「希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。」と記されています。この言葉を単に見てみると、ああ願っているのみ言葉、または苦難に関するみ言葉なんだと思いますが、詳しく見ると、このみ言葉も愛の実践について説明していることがわかります。

は同じ言葉です。「希望の中で楽しく」という言葉を別の言葉で表現すれば、「私たちが希望を持っている限り楽しくしよう」と表現ができるはずですよ。

私たちには希望があるとい



うことです。その希望がある限り楽しさの他はないということですよ。その希望を眺める喜びで兄弟姉妹を愛するようになり、ということですよ。希望とは、神様が私たちの人生に与えられた最も偉大な約束からきたのです。この希望は、将来的にもう少し良いことがあるような希望をいうことでは

ありません。この希望は、永遠の国に対する希望を語ることで。

使徒パウロはこの希望について、コリントの信徒への手紙一15章51節、52節でもあまりにも詳細に説明しています。

「わたしはあなたがたに神秘を告げます。わたしたちは皆、眠りにつくわけではありません。わたしたちは皆、今とは異なる状態に変えられます。最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、わたしたちは変えられます。」

使徒パウロは復活したイエスに会った人です。使徒パウロは、復活されたイエス様がおられる天国に行って、その世界を見てきた人です。そのパウロが聖霊の感動を受けたことと合わせて、聖書を通してこのように伝えていきます。「私たちがすべて死ぬわけはありませんでした。永遠の世界があった。イエス様を信じて従う私たちは死んだ後もまた生きるようになりました。それもそのような体で再び生きるのではなく、永遠に病氣

でも、死ぬこともないそのような体で永遠に生きることになる…。」

そのような希望が私たちにあるということです。その希望がある限り、私たちは喜んで楽しくなるしかないということです。このような大きな希望を私たちに与えられた神様の恵みに感謝し、その恵みを与えられた神様を愛し、その恵みの中で一緒に生きていく兄弟姉妹を愛さなければなりません。

この世には、神様を知らずに人生を送る多くの人がいます。彼らはいつも不安の中で人生を生きているのです。彼らは明日が保証されていないので、今日を生きるために努力しています。一日でももっと楽に暮らすために、一日でももっとよく食べて幸せになるために身をかがめることが、神様を知らない人々の人生です。

愛する東北教区信徒の皆さん！希望の中で楽しんでください。苦難の中でも我慢してください。愛のためにいつも祈ってください。

(弘前昇天教会牧師)

奉仕職養成グループ主催研修会 「奉仕のススメpart 8」開催

感謝いたします。

当日分ち合ったお話や質問内容は、奉仕職養成グループの不定期刊行物として教区の皆様にお届けする予定です。是非ご覧ください。

(奉仕職養成グループリーダー
マーガレット 若生 伸子)

3月30日(日)午後、「奉仕のススメ part 8」が開催されました。「チームミニストリーとなるために」をテーマに、昨年12月に発行された冊子『せみなりお青葉シリーズ 4 チームミニストリーとなるために』の著者、加藤博道主教と畠山秀文さん(弘前昇天教会信徒)を迎えて、お二人からのお話や冊子に関する質問・意見等を分かち合いました。会場となった仙台基督教会に20名、オンラインでは15の会場からおよそ70名の参加がありました。多くの方に関心を寄せていただきましたことに

「チームミニストリーとなるために」 研修会に参加して

盛岡聖公会

ソフィア 赤坂 康子

研修会では多くの方々と共に「チームミニストリーとなるために」を楽しく学び、分かち合うことができました。冊子が配布された時、読みやすく一気に読んでしまった、という声を聞きました。チームミニストリーという聞きなれないテーマながら、親しみを感じていただき、それも研修会への多数の参加に繋がったと思います。

テキスト8頁「洗礼を受けたすべての人が奉仕職」に関して、「奉仕したくても思うように奉仕できない人はどうしたらよいか」の質問に、加藤



左 加藤博道主教 右 畠山秀文氏

主教から「チームでは皆が同じことをしない。いろいろな人がいて、キリストの体となる。弱く見える部分が一番大切なこともある」。また聖職候補生の有我忠幸さんは、「奉仕される方があって奉仕が出来る、奉仕する者は喜びがある。こうでないと、と考えずに自然な思いに任せていけば良いと思う」とお答えくださいました。チームミニストリーとして教会のこれからモデルを創っていくためには、こだわりを捨て、頭を柔らかくして皆で考えていく。良いアイデアは、往々にしていつも教会で前面に立っている人からよりも、教会の隅で静かにしている方から出てきたりするものかもしれません。チームミニストリーの意味を教会の全ての方に知っていただけたらと思いましたが、「せみなりお青葉」のテキストを身近に置いて参考にし、学んだから終わりではなく、皆で力を合わせて迷いながらも少しずつ実行です。

一人ひとりの教会でのご奉仕が、神さまからの召命の喜びに溢れますように。

「東北教区教役者大斎黙想会」

司祭 ステパノ 越山 哲也

4月17日(木)聖木曜日に東北教区主教座聖堂・仙台基督教会で東北教区教役者大斎黙想会が行われました。聖木曜日の礼拝では、司祭按手の約束の更新が行われ、司祭たちはそれぞれ司祭に按手された時の約束を思い起こし誓いを新たにしました。また、聖香油の聖別も行われました。礼拝後に、黙想講話を川上直哉牧師(日本基督教団石巻栄光教会牧師)よりお聴きしました。講話のテーマは「傾聴」で、これは東北教区宣教協議会からの呼びかけ「聴くこと」に呼応したふさわしい内容でした。川上先生は、東日本震災発生からこれまでの間「東北ヘルプ」(NPO法人被災支援ネットワーク)の働きを担われ、現在は代表を務められています。私たち聖公会の教会ともいつも共に歩んでくださっています。

東北ヘルプの働きの紹介の中で震災から14年経過し震災被災者の「声」が繁栄(きら

びやかさ)によってますます隠されてきている現実に危惧し、繁栄は傾聴を妨げるものであると話されていました。まさに悪魔の誘惑は、神の声、人々の声、世界の声に耳を傾けようとする力を妨げるのです。イエス様は、その悪の力に負けないように「つながっているよ!」と励ましてくださっています。昼食後には、教役者一人一人が講話を聴いての思いを語り、分かち合いました。短い時間ではありましたが自分自身を振り返り、主につながって立つことを再確認出来た黙想会でした。



拡大展望会議開催報告

4月4・5日に、仙台基督教会を会場とした拡大展望会議を開催しました。

教区展望会議では昨年から、教会の仲間たちに直接「出会う」率直な意見や思いを聴き合うことに取り組んでおり、今回の拡大展望会議も、東北各地から集まった教会信徒の皆さんと直接出会う、議論を交わしていくことを大切にしました。

会議の中では「信仰者として、教会としてあるべきだと思う姿」と「現実の自分たちの姿」を語り合い。その上で「何が出来るのか、変えることが出来るのか」といったことを様々な角度から話し合い、具体的なアイデア等も出しました。

その様子は是非、発行されたニュースレターや、会議に参加した参加者から知っていただければと思います。また私たち教区展望会議も、今回の会議を受けて、ますます「展望」につながる発信をしていきたいと思っています。

(議長 司祭 渡部 拓)

東日本大震災被災者
支援プロジェクト報告

4月9日の水曜喫茶は前月の賑わいとは違って変り、ご家庭の事情などで参加者は4名でしたが元メンバーや沖縄教区、中部教区の皆さんより豊富な差し入れをいただき、励ましをいただいております。新地町も間もなく農作業の全開期に入ります。地元の皆さんの活躍や、お花見の予定を話すよりも最近不調なお米の話で盛り上がりました。従事するしないに関わらず心配事は一定程度あるものです。どうか次回5月14日は多くの皆さんが集まりますように。

(リーダー 浅原 和裕)



有珠聖公会



有珠は伊達市内、太平洋に面する入り江にあり古くからアイヌ民族のコタン（集落）が形成されていた地で、1879年より宣教開始。カムイタツコプ（神の丘）に建つ石造の教会は、文化財指定です。

2017年制定の教会の夢は、「潮の香りと土の香りに、愛の香りを加える教会に。様々な人たちとの出会いと交わりの中で、町の宝となる教会に」。現在堅信受領者は23名。毎年開かれるクリスマスコンサートには、100名を超える地域の方々が教会を訪れます。



主教コラム



4月23日、聖クリストファ幼稚園で誕生礼拝をしました。

31年前、長男と長女が通った幼稚園で母校に帰ったような懐かしい感覚になりました。縦割りクラスの園児さんたちはまるで大人数の兄弟姉妹で生命力にあふれていて、私の魂が再生させられます。子どもたちから常に希望をもらいます。

4月12日、バルナバ小林聡師の主教按手式・大阪教区主教就任式に参列し、説教をさせていただきましたとても光栄でした。約400人の会衆は大きな大きな喜びに包まれました。大勢の子どもたちや青年たちが参列していて、陪餐のとき笑顔と神妙な物腰で祝福を受けていました。その光景に、私は明るい教区の未来を見ていました。

3月30日午後、奉仕のススメPart 8が仙台基督教会を会場にしてハイブリッド形式で開かれました。加藤博道主教と弘前昇天教会信徒の畠

山秀文さんがスピーカーをさ
れ、オンラインで結ばれた各
教会と個人の約90人が参加
しました。チームミニストリー
の意味や実践へのアプローチ
を模索する時となり、宣教と
牧会を信徒と教役者がチーム
を組む、あるいは地域におけ
る協働の有り様を皆で考えま
した。これを機会にもっと
もっと主の御用をする働きを
考えていきたいと思いました。

4月の教区関係逝去者は20
名でジョン・マキム主教、司
祭11名、執事2名、伝道師3
名、宣教師3名です。加藤主
教がよく話されましたが、教
区には豊富な奉仕者たちが大
勢揃って働かれておりました。
すでに帰天された秋田や仙台
の何人かの高齢信徒たちから
青年時代に牧師と路傍伝道に
駆り出された経験を伺ったこ
とがあります。あまり聞かれ
なくなつた「伝道」が基本で
あると再認識させられている
昨今です。私たちにとって「種
蒔き」が本質です。「あなたの
パンを水の上に投げよ、多く
の日の後、あなたはそれを得
るからである。」

(コヘレトの言葉11・1)
(教区主教)



八戸聖ルカ教会

4月6日(日)、有志10名で弘前昇天教会を訪ねました。車2台に同乗した津軽路では、残雪の美しい岩木山を讃えつつ、昇天教会の墓地に寄り、教会へと向かいました。

教会に近付くと、礼拝堂前で待つておられた李賛熙司祭を見つけ、青森に戻ってきてくださったことを実感し、喜びと感謝の気持ちで湧いてきました。弘前の信徒の皆様と聖歌を歌い、聖餐式が行われました。その後、ご準備くださった昼食をとりつつ、交流会では親しく交わることができ、久しぶりに佐藤忠男主教ご夫妻とお話しできましたことも感謝でした。

そして4月20日にはイースターを迎え、日曜学校でエッグ・ハンティングを楽しんだ後、越山哲也司祭司式による礼拝が行われました。初の試みとして、入堂の前に有志に

よるトランペット、サクソフ、トロンボーン、ファンファレが演奏され、その力強い音色は復活の喜びと重なりました。

今年度も月初めに長谷川清純主教がお出でくださり、月2回の聖餐のお恵みに与ることができ、感謝いたします。

福島聖ステパノ教会

今年の大斎節は、主日礼拝後に2回、涌井司祭による「礼拝の基本的な学び」を行いました。昨年の降臨節にも行いましたが、繰り返し学ぶことが大切だと思っています。

当教会は、朝ドラの影響もあり、現在まで平日に限らず日曜日にも、見学者が多く来られます。礼拝に参加される方もいます。その対応をしながら、少しでも興味関心を持たれた方が、それぞれの居住地で、教会に足を運んでくださることを願ひながらおります。復活日は、この時期にしては暑い日になりました。ミヤンマーから来日し福島で7年仕事をしている信徒のお母さん(ミヤンマー聖公会)が、

数週間前から娘さんの所に滞在し(昨年もうらっしゃいました)、復活日礼拝にも出席、良い交流の時間になっています。いつも代祷の中で、ミヤンマーについて祈っています。ミヤンマー地震の募金」も始めました。国にいるご家族やお家には被害はなかったそうです。

今のステパノ教会は、時折英語、韓国語、ミヤンマー語が飛び交って(?)います。聖書を読む会などの再開も予定しています。

常置委員会報告 (第6回・4月7日)

報告事項▼主教報告…パウロ有我忠幸聖職候補生は2025年度も聖公会神学院「特任聖職・特別コース・オンライン講座」を受講する。

協議事項▼学校法人聖公会栄光学園との土地使用貸借契約期間の延長について承認。▼

ミヤンマー地震被災者支援募金について、教区内各教会に呼びかける。募金期間は6月末までとする。▼奉仕職養成グループより「教役者大斎黙想会」費用の研学資金申請が

あり、これを承認。▼宣教強化資金運用グループより新規融資の審議結果についての承認申請があった。山形聖ペテロ教会からの申請については承認。学校法人聖パウロ学園からの申請については同グループに再協議を依頼し、改めて協議する。▼今年度(定期)教区会の日程を11月23日(日)・24日(月・祝)とし、東北教区主教座聖堂仙台基督教会礼拝堂、ビンステッド主教記念ホールで行う。

聖婚式おめでとう

オーガスティン 赤坂 豊
濱口 今日子
(4月29日・盛岡)

永遠の平安

ヨハネ 大星 光次
(4月1日・盛岡)
ミカエル 八柳 和夫
(4月20日・山形)

6月逝去者記念聖餐式

6月4日(水) 午前10時
於 主教座聖堂
司式・説教 長谷川清純 主教

宣教師 Miss Marian Humphreys
1968年6月1日逝去

司祭 山縣 雄杜三
1941年6月2日逝去
司祭 曾根 精
1929年6月6日逝去

Sr. Mariya Margaret

1994年6月6日逝去
司祭 テモテ中山 眞
2019年6月8日逝去

司祭 ダビデ横田 豊
2004年6月19日逝去

司祭 ヨハネ佐藤 真実
2023年6月24日逝去

司祭 パウロ山崎 正雄
1998年6月25日逝去

伝道師 桑野 倭
1936年6月29日逝去

司祭 ペテロ宅間 信基
1984年6月30日逝去

伝道師 ルツ小笠原 あい
2001年6月30日逝去

6月8日は「地球環境のために祈る日」、6月8日・14

日は「原発のない世界を求める週間」です。環境破壊による被害、ことに原子力発電所による被害に苦しむ方々を覚えてお祈りください。

6月22日・28日は「沖縄週間」です。沖縄の現実に思いを寄せ、主の平和を求め、お祈りください。